

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	多文化共生を学び地域をつくるための教材開発～「考えよう！ともに生きる浜松の未来」～							
団体名	公益財団法人浜松国際交流協会							

***** 事業のポイント *****



- ・ 浜松市内の教員や地域関係者が集まり、現場の目線から考え、議論と試行を重ねつくりあげたオリジナル教材。
- ・ 南米系日系人が多いという浜松ならではの特徴を活かした、浜松市民による浜松市民のための教材。
- ・ 「知る」だけでなく「理解する」ステップを踏み「社会をつくる」行動に結び付けていく教材。
- ・ オリジナルのアニメーションの他、参加型で楽しく学べるアクティビティを紹介。すぐに使えるワークシートや資料をデータで提供。

助成年度 区分	平成20年度地域国際化協会等先導的施策支援事業	事業総額	800 千円
------------	-------------------------	------	--------

事業の内容、成果等

● 事業実施の背景

在住外国人、特にブラジルやペルーなど南米から来日した日系人が多く暮す浜松市では、在住外国人の子どもの支援が教育委員会やNPOなどにより様々に取り組まれている。しかし、その内容は日本語指導や学習支援が中心で、外国人の子ども自身が自分自身の存在について社会的歴史的に学び未来を切り開く力をつけるところまではいたっていない。また、外国人の子どもたちを受け入れる側の日本人の子どもたちの理解を促すような教育はあまり取り組まれていない。

そこで、中学校で外国人生徒の担当である教員が(財)浜松国際交流協会とJICA浜松デスクに教材開発のアイデアを持ちかけ、小学校、高校の教員、外国人の子どもの支援員や日本の小中学校を卒業した外国人の若者当事者などに呼びかけ、プロジェクトチームを結成して2007年度(平成19年度)より2年間に渡って教材開発を行うことになった。2008年度(平成20年度)に地域国際化協会等先導的施策支援事業助成を受け、教材の出版にこぎつけた。

【プロジェクト発足から完成までの流れ】

2007年4月～	スタート。月1回のペースでアイデアを出し合い、現状分析、課題探しなどを行う。
10月～	教材のコンセプトが決定。各担当に別れ、試案づくりを進める。
2008年1月～	各担当ごとに試案を発表しあう。
3月	平成20年度地域国際化協会等先導的施策支援事業助成金に応募、採択。
4月～7月	メンバー内で試行を重ねる。
8月～12月	小学校、中学校、高校、大学、教員研修、一般対象国際理解教育セミナーなど約7箇所ですり試行と改良を重ねる。
2009年1月～2月	原稿取りまとめ→出版

● 目的

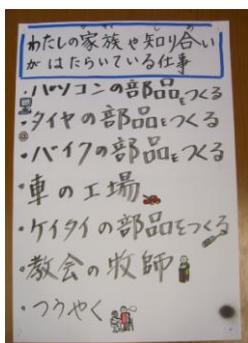
・南米系日系人が多い「浜松」という地域性を活かした浜松市民による浜松市民のためのオリジナル教材を開発し、浜松市民に広く使ってもらう。⇒このことを象徴しているのが表紙：ブラジルカラーの緑と黄色、そして浜松市の福市長である「うなぎ犬」を採用。

・多文化共生という地域づくりの課題が自分たちに関わっていることを知り、理解し、行動できるような人材を育てる教材をつくる。

● 内容

構成	ねらい	テーマ	対象
第1部	知る	ブラジルへの移民の歴史と日本へのデカセギの事実	
		教案①日系人とともに見つめる 自分・まち・未来	南米系日系人中学生 *日本人中学生に適用可
		教案②100年前のブラジルへタイムスリップ ～アニメで学ぼう移民の歴史～	小学校5年生～大人
第2部	理解する	教室での受容とクラスづくり 教案③立場を変えればどんな気持ち!? Let's チェンジ	小学校3年～6年生
第3部	地域をつくる	防災をテーマに 教案④災害シュミレーションゲーム「カタストロフォイ」	中学生～大人

(体裁：A4 判一部カラー全 69 ページ 500 部発行)



教案① 自分のことを知る



教案③ ポルトガル語で指示を聞く



教案④ 「カタストロフォイ」



教案② アニメーション



教案③ 絵文字で学校の表示をつくる



教案④ 高校生が実践「カタストロフォイ」

● 工夫点

【表紙】とにかくインパクトがあり、手にとってもらい、覚えてもらいやすいデザインにした。題名を忘れても、「あのウナギ犬の教材」、と言ってもらえるように。

【様々な人と一緒に】企画者・作成者に小・中・高校の教員や外国人の子どもの支援員経験者、外国人当事者などを迎えたのはもちろん、アニメーション・教材「カタストロフォイ」・表紙などのデザインは青年海外協力隊のOGに依頼、アニメーションの声の出演は実際の中学生や教員に依頼するなど、できるだけ多くの人々に関わってもらいながら作り上げることで、「みんなの教材」にしていった。

【試行・実践】全ての教案は実際に授業などで実践されたもの。教材「カタストロフォイ」は何回も対象者を変えて試行を積み重ねることにより改良を重ねた。

【日系人の生徒を対象に】日系ブラジル人・ペルー人の中学生が自分自身のことを学ぶ教案を実践。将来を考え始める外国人中学生が主体的に学びに関わることのできる教案も作成。

【データも提供】すぐに使えるように、アニメーションやワークシート、資料などのデータをCDにまとめて提供。

● 苦勞した点

・「カタストロフォイ」は、ルールを分かりやすくシンプルにして、使いやすくするために何度も改良を重ねた。

● 成果

・教材をつくる過程で、実践や試行が行われた小中学校のクラスで子どもたちに変化が生まれた。

・「カタストロフォイ」を参考にして他の地域(滋賀、福岡)で発展した教材が開発された。

・浜松市内の学校の授業で実際に使われた。(小学校5年生の授業で浜松地域の開拓を学ぶにあたり、移民の歴史を学んだ)

・地域の民生委員や自治会長の集まりなどでも実践し、実際の多文化共生の地域づくりのきっかけとなっている。

・国際理解教育に関心のある教員や協力隊経験者など新しい仲間が増えた。

● 課題

・教育委員会も含め、より多くの教員に関心を持ってもらうことが課題。しかし、カリキュラムが決められて忙しい学校では実際に取り入れてもらうことが難しいので、教員より若い世代の中高大学生にターゲットを絞って広めていくことが大事かもしれない。

・教育現場だけでなく、できるだけ多くの地域で行い、多文化共生の地域づくりに役立ててもらおう。

・「カタストロフォイ」の改良。